

絵で見る

終戦直後の 養育院

櫻園通信 31.

平成 28 年 1 月

東京都健康長寿医療センター

養育院・渋沢記念コーナー

連絡先: 老年学情報センター

宮本孝一(老年学情報センター)



東京都健康長寿医療センターの職員用図書館“老年学情報センター”に110cm×70cmの大きな油絵が保管されています。

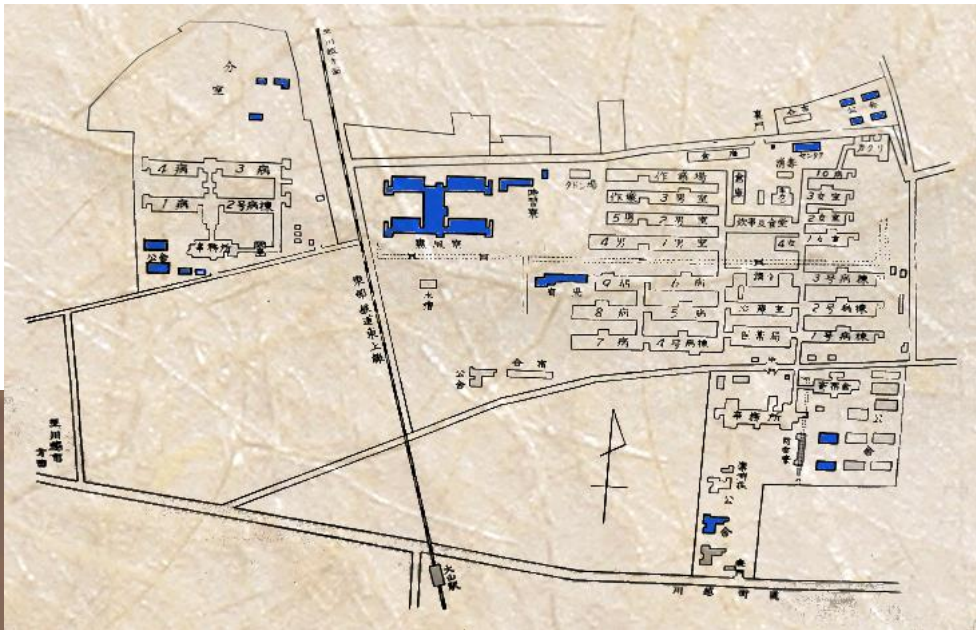
額の中には「昭和25年当時 養育院板橋構内」という画題が貼られています。絵には「T.Ohuchi 1950」のサインが書かれています。

この絵は、旧施設の倉庫に保存されていたもので、新医療センター移転時に老年学情報センターに運びました。作者がどういう人物で、いつどういう経緯で所有することになったのかは不明です。

この絵では、養育院の南側には家が無く、広い緑地になっています。しかし実際は終戦直後から民家が建ち始めていました。

養育院の再建

- 1945(昭和20)年
終戦。養育院の残存施設と隣接する軍事施設の寮を使用して病院機能の確保が図られる。
- 1946(昭和21)年
施設設備復旧のため、炊事場を新設。
浮浪者・浮浪児の収容者激増。
板橋区に養育院立退き運動が起こる。区は養育院敷地への文化センター・中学校建設に関する嘆願書・請願書を都議会に提出。
- 1947(昭和22)年
印刷工場と本院事務所を新設。民生局・養育院と区で交渉開始。養育院本院敷地の公園化が協定書に盛り込まれる。しかし養育院移転候補地の選定は難航。
- 1948(昭和23)年
養老施設「明々寮」、浴場、ポンプ室、作業場兼講堂を新設。
- 1949(昭和24)年
GHQ 軍政部キャロー女史が養育院の現地再建を指示。
- 1950(昭和25)年
成人保護寮、養看護施設開設。
- 1951(昭和26)年
養育院附属看護学院設置。改正東京都養育院条例の公布。



青い建物が終戦直後の残存施設です。

空襲で、養育院の建物のほとんどが失われました。

年学情報センターで保管している油絵を、コンピュータで画像処理し、夕暮れ時の養育院の光景を再現してみました。

